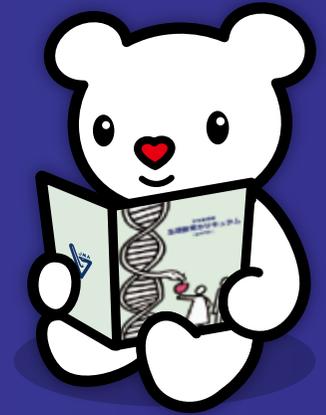


JMA

日本医師会生涯教育制度 実施要綱改正のお知らせ



平成22年度から 日本医師会生涯教育制度が 変わります！

日本医師会生涯教育制度は、医師としての姿勢を自ら律するという、プロフェッショナルオートノミーの理念のもと、医師の生涯教育が幅広く効果的に行われるための支援体制整備を目的として、昭和62(1987)年に発足しました。その後今日まで、数次にわたる制度の改定を行い、その質的向上と充実を図っています。

今回の制度改正では、医師が不断に学習する姿を、より明確な形で国民に見ていただき、もって、質の高い医療を提供し、国民の健康に貢献することを目指しています。

より幅広く、より効果的に！

平成22年度以降の生涯教育制度実施要綱の主な改正点

1. 1単位あたりの学習時間を1時間以上と明確に示しました。
2. 平成21年4月号の日本医師会雑誌に同封した「生涯教育カリキュラム(2009)」に沿って、84のテーマにカリキュラムコード(P7参照)を付与しました。
3. これまで、1年間10単位で修了証を発行し、3年間連続取得したものに認定証を発行していましたが、修了証から「単位取得証(1年ごとに単位の取得状況を通知するもの)」に変更し、「連続した3年間で合計30単位、30カリキュラムコード(同一コードは加算不可)」を取得した者に「認定証」を発行します。
4. 日医雑誌やe-ラーニングの自己学習に「評価」を導入しました。
5. 認定証に「3年間の有効期間」を明記します。



生涯教育カリキュラム(2009)



単位・カリキュラムコード付与の対象は以下のとおりで、これまでと変わりありません(詳細はP4.5を参照)。

- | | |
|---|---------------------|
| ① 日本医師会雑誌を利用した回答 | ⑤ 医師国家試験問題作成 |
| ② 日医 e-ラーニング | ⑥ 臨床実習・臨床研修制度における指導 |
| ③ 講習会・講演会・ワークショップ・学会等 | ⑦ 医学学術論文・医学著書の執筆 |
| ④ 体験学習
(共同診療、病理解剖見学、手術見学等の病診・診診連携の中での学習) | |

制度変更に伴う暫定措置

制度変更に伴う暫定措置として、平成21年度の日本医師会生涯教育制度において10単位以上取得した者(修了証発行対象者)全員に認定証(平成22年12月1日付)を発行します。その際、発行する認定証には有効期間(平成25年11月30日まで)が明記されます。このため、平成21年度の申告は、必ず行ってください。

制度の詳細は、日本医師会生涯教育 on-line に示しています

生涯教育ポータルサイト
日本医師会生涯教育 on-line <http://www.med.or.jp/cme/>

申告について

申告手続き等は、これまでと変わりありません。ご所属の郡市区医師会に申告してください。その後、都道府県医師会を通じて日本医師会に送付されます。

毎年、「日本医師会雑誌」3月号に同封される申告書の「生涯教育単位等記入表」に1年間の取得単位及び、取得カリキュラムコードを記入し、講習会等の参加証等を添付のうえ、4月末日までに所属の郡市区医師会に提出してください。
(一括申告を行っている地域においては、講習会等への参加について、申告書の提出が不要な場合もあります。)



「日本医師会」に送付された申告書・一括申告データに記載・記録された学習単位及びカリキュラムコードに、日本医師会が管理する単位・カリキュラムコードを加算し、個々の申告者の年間合計取得単位・カリキュラムコードを確定し、毎年10月に「単位取得証」(取得カリキュラムコードを含む)を発行します。そのうえで、3年間で30単位・30カリキュラムコードを取得した者に、認定証を発行します。なお、同一カリキュラムコードを重複して取得しても加算されません。



勤務医・専門医の方々へ

日本医学会分科会107学会(P8参照)が開催する学会(都道府県単位以上)や日本医学会総会(4年に1回開催、次回は平成23年4月開催)は、自己申告により単位数の2倍までカリキュラムコードを取得できます。例えば、日本医学会総会の場合、3日間の開催で合計15単位が取得できますので、30カリキュラムコードまで申告ができ、取得が可能です。また、研修医等を指導することにより、年間5単位、3年間で15単位取得できます。

今回の改定により、勤務医・専門医の方々で、学会に参加できる方は自己申告によって、学会への参加が難しい方は自己学習によって、より容易に単位等を取得することができるようになりました。

単位・カリキュラムコード取得方法



日本医師会雑誌を利用した回答

日本医師会雑誌には毎号、特集のテーマに関連する問題(1カリキュラムコード毎に5題、1号につき2カリキュラムコード、計10題)を掲載します。回答はインターネットまたはハガキにより行います。インターネットまたはハガキによる回答はどちらか1回限りとし、1カリキュラムコードにつき、60%の正答率を得たもの(5問中3問以上正解)に0.5単位を付与します。インターネット回答の場合は回答掲載後、単位・カリキュラムコード付与について随時確認できるようにする予定です。できるだけインターネットでご回答ください。

これにより取得した単位・カリキュラムコードは日本医師会で管理します。



日医 e-ラーニング

日本医師会生涯教育 on-line に掲載している1コンテンツ(約30分)につき、0.5単位1カリキュラムコードを取得できます。

アセスメントにおいて、60%以上の正答率を満たした場合に単位・カリキュラムコードを付与します。正答率が60%に満たなかった場合は、再回答が可能です。

インターネットで取得単位、カリキュラムが随時確認できます。

これにより取得した単位・カリキュラムコードは日本医師会で管理します。



生涯教育ポータルサイト
日本医師会生涯教育 on-line

日医 e-ラーニング
の受講について

日本医師会生涯教育 on-line ページには、上記2コンテンツを含む、日医会員のみなさま向けの「情報・コンテンツ」が数多く掲載され、みなさまのアカウント(ユーザーID・パスワード)が登録されています。

(日医雑誌などの宛名シール)

■ ユーザー ID

会員ID(日医刊行物送付番号)の10桁の数字(半角で入力)です。日医雑誌などの宛名シール下部に印刷されている10桁の数字です。

■ パスワード

生年月日の「西暦の下2桁、月2桁、日2桁」を並べた6桁の数字です(半角で入力)。例えば、「昭和37年(1962年)2月4日生まれ」の場合、「620204」となります。

〒113-8621
東京都文京区本駒込2-28-16
(社団法人)日本医師会

駒込 太郎 様

2010/2/1 13:00

ユーザー ID

0000000000



講習会・講演会・ワークショップ・学会等

講義時間1時間で1単位(最小単位は30分で0.5単位)とし、1講習会等1日の上限は5単位までとなります。(例:2日間10時間<1日5時間>以上16時間でも10単位まで)。

1カリキュラムコードの付与は最短30分(0.5単位)です。

- ①日本医師会(日本医学会を含む)、都道府県医師会、郡市区医師会の主催
プログラム・参加証等に示されている単位・カリキュラムコードを取得できます。
- ②日本医学会総会及び日本医学会分科会(P8参照)の主催
カリキュラムコードは単位数の2倍を上限に自己申告で取得できます。
- ③上記以外の各科医会、研究会など、各種団体の主催
都道府県医師会(または郡市区医師会)に事前に届出があったものについて、プログラム・参加証等に示されている単位・カリキュラムコードを取得できます。
なお、演者、講師を務める場合も単位数は同じですが、単位数の2倍を上限にカリキュラムコードの「2・継続的な学習と臨床能力の保持」の付与も可能です。



体験学習(共同診療、病理解剖見学、症例検討、手術見学等の病診・診診連携の中での学習)

体験学習は1時間1単位で、1日の上限は5単位までとなります。最小単位は30分で0.5単位(1カリキュラムコード)となります。カリキュラムコードは単位数の2倍を上限に自己申告です。なお、それにより報酬を得るものについては体験学習とはなりません。



医師国家試験問題作成

医師国家試験問題は、都道府県医師会(郡市区医師会)に提出されたものについて1題1単位とし、年間5単位まで取得できます。カリキュラムコードは「84・その他」のみ取得できます。なお、グループで作成されたものについても1題につき、一人ひとりが1単位を取得できます。



臨床実習・臨床研修制度における指導

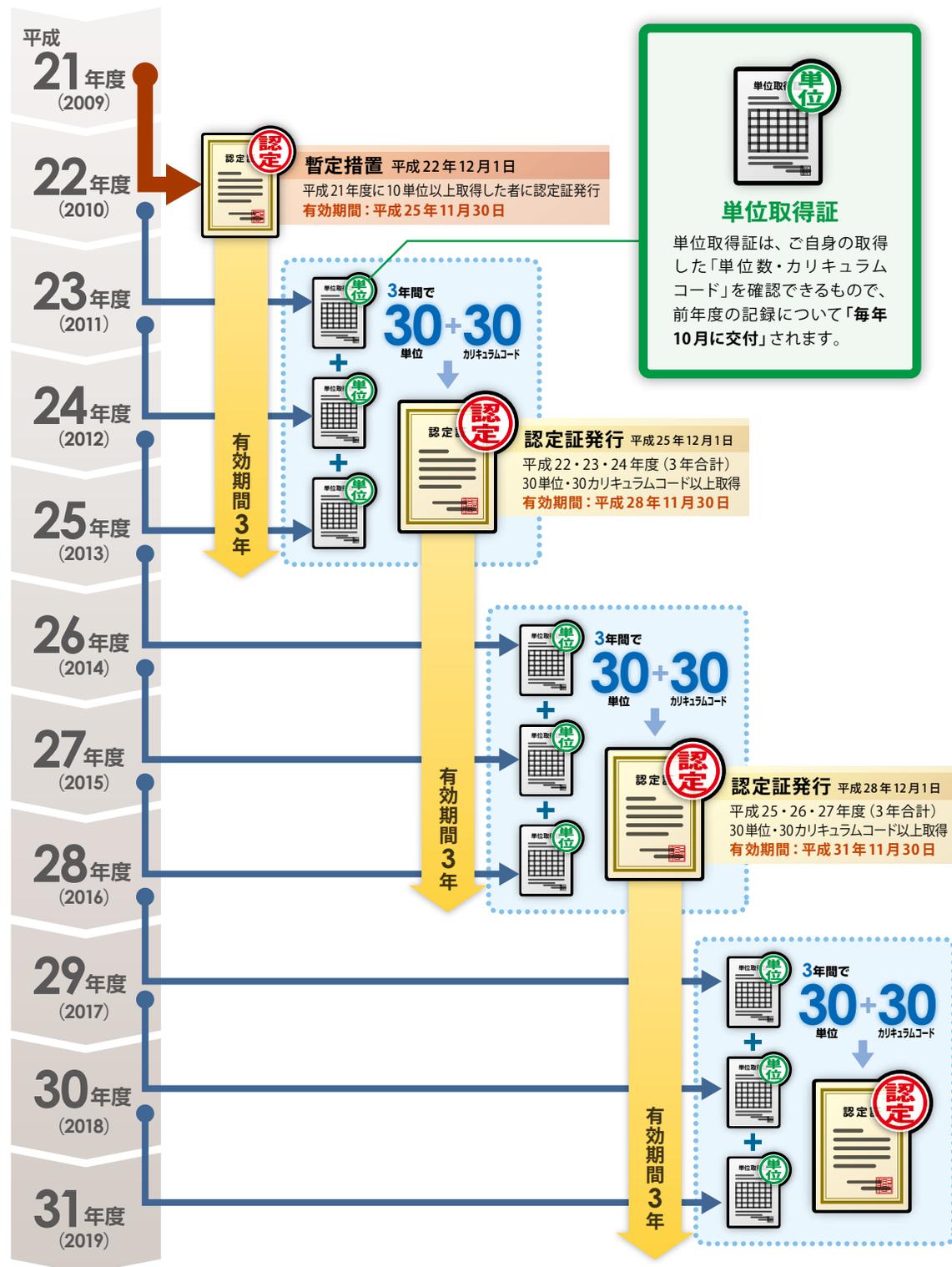
臨床実習・臨床研修制度における指導の単位は、研修者1人を1日指導することにより1単位とし、年間の単位の上限は5単位までとします。カリキュラムコードは「2・継続的な学習と臨床能力の保持」のみ取得できます。



医学学術論文・医学著書の執筆

医学学術論文・医学著書の執筆(共同執筆も含む)は1回(または1件)あたり1単位で、年間の上限は5単位までです。カリキュラムコードは1回(または1件)につき2つまで自己申告で取得できます。





1 専門職としての使命感	28 発熱	57 外傷
2 継続的な学習と臨床能力の保持	29 認知能の障害	58 褥瘡
3 公平・公正な医療	30 頭痛	59 背部痛
4 医療倫理	31 めまい	60 腰痛
5 医師-患者関係とコミュニケーション	32 意識障害	61 関節痛
6 心理社会的アプローチ	33 失神	62 歩行障害
7 医療制度と法律	34 言語障害	63 四肢のしびれ
8 医療の質と安全	35 けいれん発作	64 肉眼的血尿
9 医療情報	36 視力障害、視野狭窄	65 排尿障害(尿失禁・排尿困難)
10 チーム医療	37 目の充血	66 乏尿・尿閉
11 予防活動	38 聴覚障害	67 多尿
12 保健活動	39 鼻漏・鼻閉	68 精神科領域の救急
13 地域医療	40 鼻出血	69 不安
14 医療と福祉の連携	41 嘔声	70 気分の障害(うつ)
15 臨床問題解決のプロセス	42 胸痛	71 流・早産および満期産
16 ショック	43 動悸	72 成長・発達の障害
17 急性中毒	44 心肺停止	73 慢性疾患・複合疾患の管理
18 全身倦怠感	45 呼吸困難	74 高血圧症
19 身体機能の低下	46 咳・痰	75 脂質異常症
20 不眠	47 誤嚥	76 糖尿病
21 食欲不振	48 誤飲	77 骨粗鬆症
22 体重減少・るい瘦	49 嚥下困難	78 脳血管障害後遺症
23 体重増加・肥満	50 吐血・下血	79 気管支喘息
24 浮腫	51 嘔気・嘔吐	80 在宅医療
25 リンパ節腫脹	52 胸やけ	81 終末期のケア
26 発疹	53 腹痛	82 生活習慣
27 黄疸	54 便通異常(下痢、便秘)	83 相補・代替医療(漢方医療を含む)
	55 肛門・会陰部痛	84 その他
	56 熱傷	

※ 同一カリキュラムコードを重複して取得しても加算されません。

日本医学会分科会 (107学会)

日本アレルギー学会	日本公衆衛生学会	日本透析医学会
日本医学教育学会	日本交通医学会	日本糖尿病学会
日本医学放射線学会	日本呼吸器学会	日本動脈硬化学会
日本医史学会	日本呼吸器外科学会	日本東洋医学会
日本移植学会	日本細菌学会	日本内科学会
日本医真菌学会	日本産科婦人科学会	日本内視鏡外科学会
日本医療機器学会	日本産業衛生学会	日本内分泌学会
日本医療情報学会	日本耳鼻咽喉科学会	日本乳癌学会
日本医療・病院管理学会	日本周産期・新生児医学会	日本熱帯医学会
日本ウイルス学会	日本集中治療医学会	日本脳神経外科学会
日本衛生学会	日本循環器学会	日本脳卒中学会
日本衛生動物学会	日本消化器外科学会	日本農村医学会
日本栄養・食糧学会	日本消化器内視鏡学会	日本ハンセン病学会
日本疫学会	日本消化器病学会	日本泌尿器科学会
日本温泉気候物理医学会	日本小児科学会	日本皮膚科学会
日本解剖学会	日本小児外科学会	日本肥満学会
日本化学療法学会	日本小児神経学会	日本病理学会
日本核医学会	日本職業・災害医学会	日本平滑筋学会
日本眼科学会	日本自律神経学会	日本法医学会
日本癌学会	日本神経学会	日本保険医学会
日本感染症学会	日本神経病理学会	日本麻酔科学会
日本肝臓学会	日本人工臓器学会	日本脈管学会
日本癌治療学会	日本心身医学会	日本民族衛生学会
日本気管食道科学会	日本腎臓学会	日本免疫学会
日本寄生虫学会	日本心臓血管外科学会	日本薬理学会
日本救急医学会	日本人類遺伝学会	日本輸血・細胞治療学会
日本矯正医学会	日本生化学会	日本リウマチ学会
日本胸部外科学会	日本整形外科学会	日本リハビリテーション医学会
日本形成外科学会	日本生殖医学会	日本臨床検査医学会
日本外科学会	日本精神神経学会	日本臨床細胞学会
日本血液学会	日本生体医工学会	日本臨床腫瘍学会
日本結核病学会	日本生理学会	日本臨床薬理学会
日本血管外科学会	日本先天異常学会	日本リンパ網内系学会
日本血栓止血学会	日本大腸肛門病学会	日本レーザー医学会
日本口腔科学会	日本体力医学会	日本老年医学会
日本高血圧学会	日本超音波医学会	

(五十音順)
平成22年1月現在

社団法人 日本医師会 生涯教育課 TEL: 03-3942-6139



生涯教育ポータルサイト

日本医師会生涯教育 on-line

<http://www.med.or.jp/cme/>

本制度の詳細につきましては、ホームページ掲載の「平成22年度生涯教育制度実施要綱」をご覧ください。